≪Bicycle Glance Meeting≫

自転車目線で水惑星地球の未来を考えよう！

I think about the future of the water planet earth in a bicycle glance !

Course Create＋転遊研

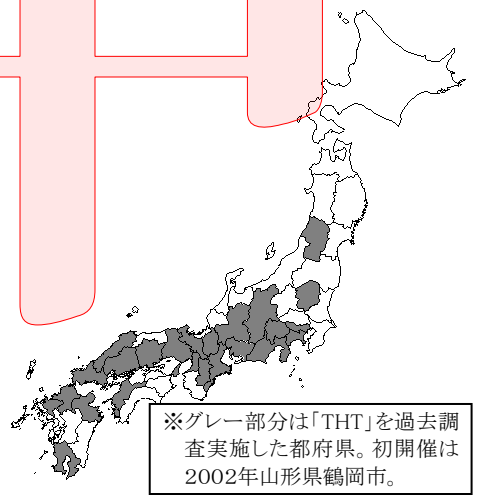
ブームから文化へ！

Bike is Good!

2005年から始めた自転車遊び実証実験では、
THT26を運営する4J チーム的な緩～い集まりに到達しました。
しかしそれでは不十分なため、「春需でソフトを！」を取りまとめられる“レベル”の
サイクリングネットワークの必要性を改めて訴えたいと思います。

はじめに（ブームから文化へ！）・・・・・・・①
必要十分アイテム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・②
自転車目線の地域貢献・・・・・・・・・・・・・・・・③
何故？6時間耐久なのか・・・・・・・・・・・・・・④
何故？3色マップリーディングなのか・・・⑤
何故？バイシクルグランスなのか・・・・・⑥

工事中



※グレー部分は「THT」を過去調査実施した都府県。初開催は2002年山形県鶴岡市。

Course Create　2015/04/02 起稿

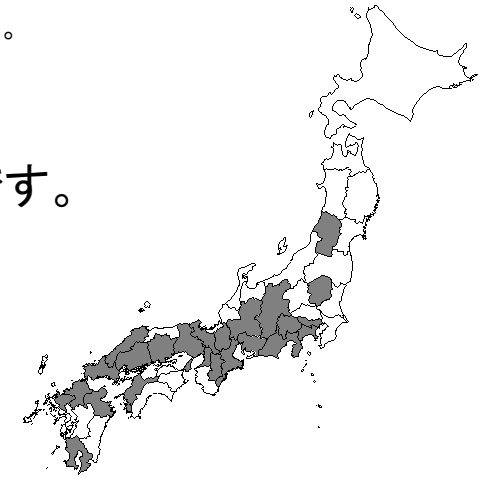
はじめに（ブームから文化へ！）

昭和30年代の第一次自転車ブームでは旅行車（ランドナー）が主流で
その背景にはレジャーブームがあり、JCAが生まれました。
続く二次や三次では輪行車やファニーバイクが登場し、
四次と言える記憶に新しいアウトドアブームを背景にしたMTBブームへと続きます。
そして五次の平成エコ系自転車ブームでは、小径車、クロスバイク、ロードと広く親しまれていますが、
果たして自転車走行環境整備を伴う自転車文化の定着に至るでしょうか？

サイクリングネットワーク・・・「サイクリング」とは、レースを含むスポーツサイクリング全般のこと！
しかし日本では、レースは競技、サイクリングは自転車旅と別物のように語られ、ネットワーク機能を有していません。
そのため「繰り返される自転車ブーム」の遠因になっていると思われます。

春需でソフトを！・・・　春需に合わせてユーザーに「自転車の乗り方や楽しみ方」を伝えること！
800万台とも言われる日本の自転車販売台数の大半が売れる「春需」に合わせてソフトを提供出来れば理想的です。
しかし、レース、ツーリング、スクールを充実させ、日本全国機会均等に行わないと効果がありません！

目的はいたってシンプル。自転車市民権と言う山に登ることです。
中腹までは簡単でも、そこから厳しさを増します。
たかが自転車。されど自転車。
これは、登頂ルートのひとつの提案です。



必要十分アイテム

※「ツーリング庄内200」は、最近のロングライドイベントの先駆けです。
愛好家主催のサイクリング大会と違って、地域起こしマジックを使っています。
地域起こしのため、初心者を含む大勢の参加者を募ります。すると交通規制を伴う一般道の目的外使用と言うことで、道路使用許可申請が必要になります。
それが出来るのは、その地域の首長級の人となります。それが地域起こしマジックです。
しかし、事前周知や各交差点へのスタッフ配置など、負担を強いられる話しでもあります。

※因みに、一般道（オンロード）を使うサイクリングには、ポタリング、サイクルツーリング、ロングライドファストラン、ブルベ、センチュリーラン、個人タイムトライアル、マップリーディングなどがあります。

4Jチーム・・・　自転車遊び実証実験実施チームの略で4J チームです。

これは日本の実情に合った、いつでもどこでも実施可能な自転車遊びを模索する中で、
福岡、大分、山口、広島、島根、兵庫、大阪、奈良、滋賀、長野、山梨、神奈川、東京、栃木にて使用した緩いネーミングです。

THT26・・・　トレジャーハントツーリング26の略で、その原型は「ツーリング庄内200」の対案です。

1999年当時、200kmのコースに500名以上の参加者が集う稀なイベントでしたが、スタッフも500名？
開催を断念した関係者から相談を受けて考えたのが、より日常利用に近い、蜘蛛の子を散らすスタート方式でした！？

実証実験・・・　原型は汎用性に乏しく、色々とシミュレーション（実証実験の場）が必要でした。

鈴鹿、お台場、横須賀、そして諏訪、横浜、小倉と場を重ね、「しものせきサイクルマラソン」の市民対象のサブメニューとして採用されました！
そして現在、「シマノバイカーズフェスティバル」でもファミリーが楽しめるメニューとして定着しています！

Bike is Good！・・・　自転車の良さや普遍性は誰もが認めるところです。

結果論ですが、日常利用とスポーツ利用の狭間に位置するTHT26は、「自転車利活用の機会均等」という実証実験の最大目標の「解」に等しいと感じています。
因みにTHT26はエリア内26箇所のトレジャーポイントを任意に巡り、集計後判明するレアポイントを推理するツーリングコンペティションです。

ブームから文化へ！・・・　THT26は繰り返される自転車ブームに終止符を打つ**必要十分アイテム**です。

一般道を適性利用の範囲内で走る競技性のある自転車ソフトを、ツーリングコンペティションと言います。
つまり“旅”と“競技”と“日常”を一体化させる「THT26」は、地域貢献も守備範囲にし、自転車市民権獲得のルートを示す「魔法の羅針盤」と言えます！

自転車目線の地域貢献

水惑星地球の未来・・・

京都議定書から始まった「平成のエコ系自転車ブーム」ですが、その後の京都水会議にこそサイクリストは目を向けるべきです。

人と大地の間に自転車。自転車は人の力を増幅するカラクリですが、エネルギー消費も加速します。
つまり、水に敏感！空気に敏感！平和に敏感！な未来人養成ギブスです！

※京都議定書・・・・・1997 年 12 月に京都市の国立京都国際会館で開かれた第 3 回気候変動枠組条約締約国会議（地球温暖化防止京都会議、COP3）で採択された、気候変動枠組条約に関する議定書。

※京都水会議・・・・・2003 年 3 月に京都で開催された第 3 回世界水フォーラム。約230の国・地域・国際機関が参加し、水と貧困、水と食料などについて討議が行われ、「琵琶湖・淀川流域からのメッセージ」を発表。

自転車目線・・・

水に敏感とは、ハンガーノックや脱水症状をいち早く経験し、ドーピングにも一日の長があるという事です！
空気に敏感とは、空気抵抗を単独走行でも、集団走行でも、強く実感するという事です！
平和に敏感とは、世界一周はもちろん平和でないと困りますが、それ以上に「人類の営み」を物見遊山するグッドアイテムという事です。

Bicycle Glance Meeting・・・

自転車には二面性があり常用速度で見える風景も違ってきます。でも自転車は自転車です！
車種不問で自転車ファンが交流し、その楽しさをより多くの人に伝え、自転車も安心して走れる交通環境を地域と共に自転車目線で考えて行くイベントを実践しませんか？
車種によってフィールドが違いますが、まずは自転車ファンが如何に地域貢献出来るかがカギとなります。そのためにも全国的な新基準のネットワークが求められます！

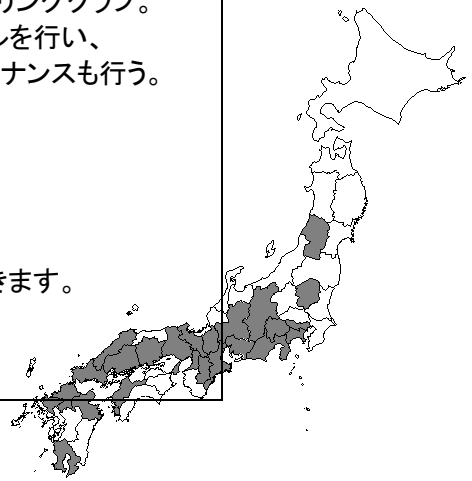
ヨーロッパ型サイクリングクラブ

ショップ・ユーザー・地域が三位一体となった、スクールからレーまで、様々な自転車ソフトを守備範囲とするサイクリングクラブ。
スポーツサイクリングでは、子供の成長に合わせたサイズを揃え、ヨーロッパ型の年代別スキルアップスクールを行い、
日常利用では、ルール・マナーの啓蒙活動や初心者対象のサイクリング大会も実施しつつ、自転車走行環境メンテナンスも行う。

奥座敷型と地産地消型

自転車は自由な移動の道具です。そのため、市街地や郊外を問わず自由に楽しめるのが魅力です。
もちろん個人でも楽しめますが、走行環境や街道風景は積極的にメンテナンスする必要があります。
サイクリング企画は車種と目的を掛け合わせると無限ですが、地元を楽しむか遠征先を楽しむかに大別できます。

つまり、ヨーロッパ型サイクリングクラブ同士の交流が、自転車文化そのものと考えます。



何故？6時間耐久なのか・・・・

交通環境を地域と共に自転車目線で考えるイベントが、MTB6時間耐久レースではありません。
より多くの場所で開催が可能で、しかもサイクリングクラブが主管できる内容だからです。
駅伝的なチーム対抗は、専用計測システム導入で、日本発世界基準の感動ゲームにも成り得ます。
自転車ファンが交流し、その楽しさをより多くの人に伝える部分は、補完企画に任せます！

補完企画・・・

スポーツサイクリングにはライセンスがあった方が良いと思います。レース参加の資格登録もそうですが、サイクルツーリストや運営スタッフにも必要では？
（仮称）サイクリストライセンスを具体化するなら一国一窓口にする必要があります。
それには、レース会場でツーリングメニューも行うことが必要条件で、MTBブームの失速は、レース先行、ツーリング置き去りという状況があったからと分析しています。

感動ゲーム・・・

MTB耐久レースは、オフロードバイクも趣味とする都内某ショップの店長が1988年に始めた草レースです。
その後、自転車雑誌の特集企画で模擬レースが紹介され、スキー場のグリーンシーズン利用と相まって、一気に全国に広まり、メーカーもこぞって全国展開をしました。
しかしチームリレー形式の耐久レースは誰もが楽しめる反面、レース展開が分かり辛いという欠点があり、そこを改善すればチャンピオンスポーツに大化けする筈です。

主管できる内容・・・

スキー場のグリーンシーズン利用もそうですが、河原や公園でもコースを切れて、実行委員会形式で十分に主管できます。
「春需でソフトを！」にも通じますが、日本各地で開催実績があるため、当企画の趣旨を理解した協力者を募ることは可能だと思います。
また、現在、日本最大級のMTBイベントとなっている「シマノバイカーズフェスティバル」との連携は視野に入っています。

MTB6時間耐久レース・・・

そして欠点を改善し、自転車競技連盟公認のトーナメント大会にしなければ、意味がありません！
地区予選は準公認としても、ブロック大会や全国大会は、公正性の保てる計測システムやレギュレーションなどを導入し、スポンサー獲得も目指します。
そのアイデアのひとつとして、予選ステージ4時間＋決勝ステージ2時間の6時間耐久レース（仮称・オンザシックス）を提案します。

何故？3色マップリーディングなのか・・・・

計画～実走～記録。
時には参加者、時にはスタッフ。
一般道の適正利用。
日常利用・ロングライド・山道走行。

計画～実走～記録・・・

ツーリングは3度美味しい！中でも地図を眺めて計画している時が一番愉しいかも！？
ツーリングは、ソロ、グループ、イベントと形を変えても、この三要素は変わりありません！そのため、コミュニケーションツールとしても秀逸です！
販促イベント、趣味のイベント、デモ的イベント。人材の育成をするなら自然増殖する趣味のイベントが最適な規模？

時には参加者、時にはスタッフ・・・

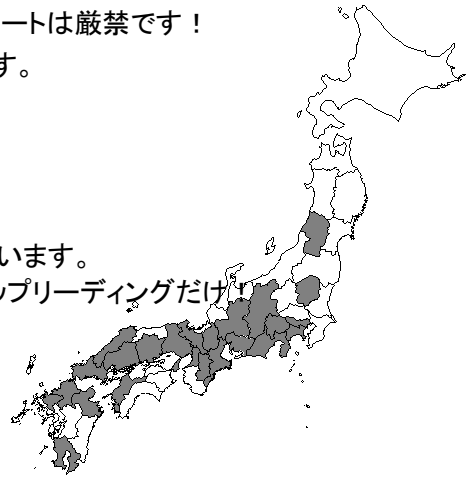
綿密な計画を立てても、気象の急変や地図では判断できない通行不能箇所があって、残念な結果になることも・・・。
「時には参加者、時にはスタッフ」は、先述したMTB耐久レースを考案した某ショップの店長の提唱ですが、それはツーリングの先達にも当てはまります。
地元サイクリストが調査した厳選ルートを、ブリーフィング情報を元に地図を読みながら辿るマップリーディング。走り出したら自己責任とは、正に大人の自転車遊びです。

一般道の適正利用・・・

販促イベントやデモ的イベントでは交通規制を伴う運営も可能ですが、趣味のイベントではマスドスタートは厳禁です！
歩行者をリスペクトし、自動車からはリスペクトされる。そんな普通の道を普通に走る規模や内容が大前提で、それが相互信頼を生みます。
マスツーリングの対案として考えた、蜘蛛の子を散らすタイプのスタート方法は、マップリーディングだからこそ具体化が可能です。

日常利用・ロングライド・山道走行・・・

マスツーリズムやサスティナブルツーリズムという言葉があります。
サイクルツーリングは持続可能な観光旅行と言う意味の「サスティナブルツーリズム」に属し、その最たるものがマップリーディングだと思います。
街道、山道、街の中。道の種類に合わせた車種があり、楽しみ方は十人百色。半日イベントという制約で、全てにアレンジ出来るのはマップリーディングだけ！

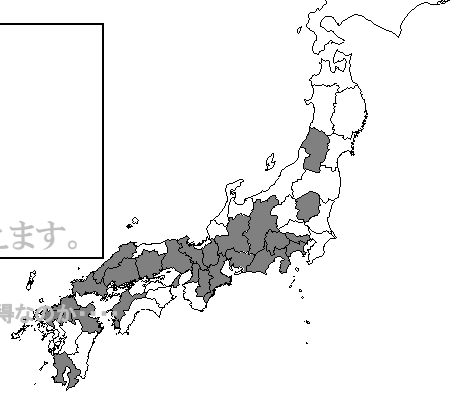


何故？バイシクルグランスなのか・・・・

（レース＋ツーリング）×トーナメント企画＝？
（ツーリングコンペティション）×３＝？
（ヨーロッパ型サイクリングクラブ）×（春需でソフトを！）＝？
（JCA＋JCF＋SBAA）÷Nippon＝？

ロードマップ

自転車≒超アナログモ式ビルスーツは、空気抵抗や水分補給など、他のジャンルに先駆けて課題としました。また、自然に対しても、平和に対しても、敏感な存在です。しかし、その利用方法で、日常の足から旅の相棒、そしてスポーツの道具と、変態を重ねるため、日本人には苦手なモノのようです。特に「道」に置いては、透明な物体のようです。そこで「自転車目線」の凄さを訴える「バイシクルグランスミーティング」は如何でしょう？

≪バイシクルグランスミーティング≫

MTB6時間耐久レースを核に、全ての車種が参加できるツーリングを併催し、
自転車関係者はもとより、地域や関連団体との交流を促進します。
できれば地区大会と全国大会を実施して、話題性を高めたいと考えます。
目的の第一は新たなサイクリストの獲得で、そして第二の目的である地域貢献に繋がればと考えます。